

事例 21

循環型農村社会をめざして

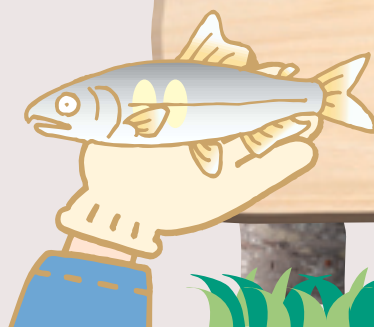
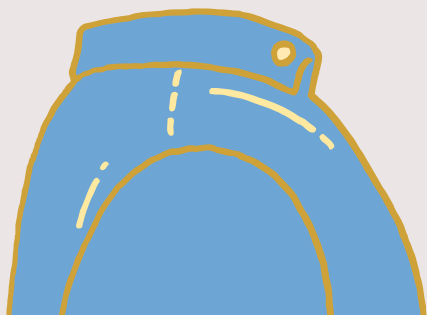
～ 農業集落排水事業「桜江中央地区」～

[桜江町]



【地区の概要】

事業年度	平成9年度～平成13年度
地区事業費	3,580,000千円
事業内容等	計画人口 3,200人 計画戸数 858戸



桜江町は、平成9年度から農業集落排水事業を実施しています。

本町では、循環型農村社会を目指し、本地区を含め、今後町内に整備する計画である農業集落排水施設から発生する汚泥を町内の農地に還元するため、本地区にコンポスト化施設を設置しました。

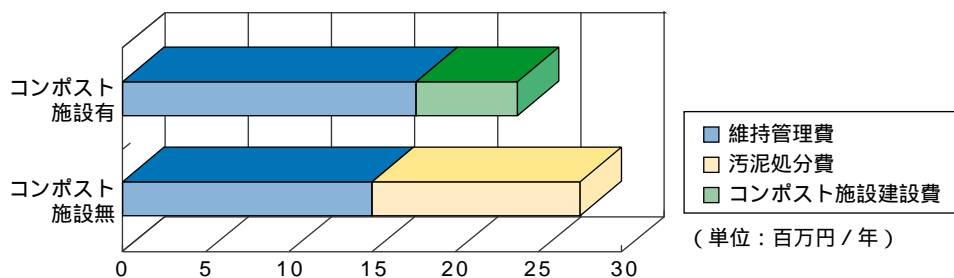
汚泥の農地還元により、汚泥処分費のコスト縮減が図れます。

平成13年度より一部供用開始し、今後発生する汚泥を堆肥化し、肥料取締法に基づく普通肥料の登録を行い、農地に還元していく計画です。



桜江中央地区の污水処理場

コンポスト施設有無の維持管理費比較



年間の汚泥処分費とコンポスト施設建設費を比較すると、コンポスト施設を建設し、農地還元する方が経済的となります。

地区の北・西部を流れる江の川・八戸川は清流で、鮎が生息しており、この川で行われている鮎漁は、町の産業として確立しています。

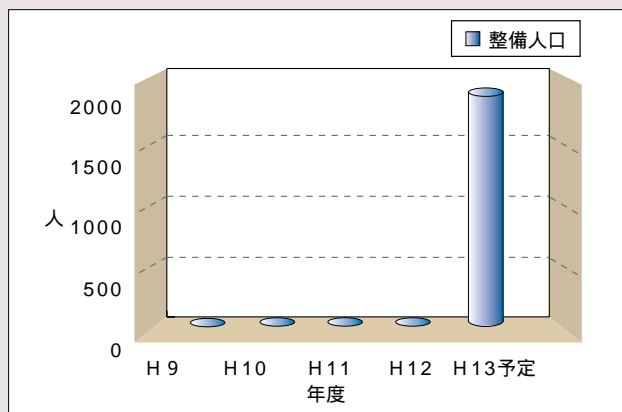
この鮎を塩素により減少させないためにも、紫外線による処理水消毒方法を採用しています。



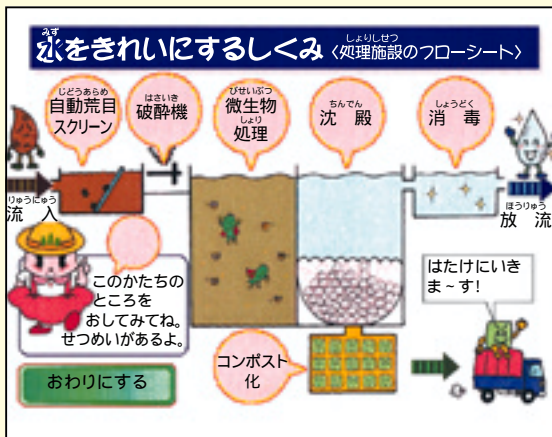
桜江町の鮎

桜江町における農業集落排水施設整備人口

町内人口約3,700人のうち、本地区の完了により60%の整備が進みました。



農業集落排水施設の污水处理フロー



汚泥堆肥施用畑 (キャベツ)



[汚泥堆肥の栽培調査ほ場からの声]

汚泥堆肥を施用しない対象区と比べ、作物の生育に差は見られない。
 施用時の不快感はなかった。(臭気については、牛糞堆肥等と同程度)
 窒素の含有量が高く、窒素・リン分の施肥を大幅に節減できるが、カリウムの含有量が低いので追肥が必要である。